

80年前(昭和11年)の  
完成祝賀会と同日に開催

## ～南幌町と長沼町に継がれる先人達の偉業～ (開催:平成28年11月24日)

今年は昭和11年の夕張川新水路の完成から80年目となります。夕張川新水路の完成により、夕張川下流域は広大な湿地帯から稲作を中心とした農業地帯に生まれ変わり、現在では夕張シューパロダム等の治水事業も進み、道内のみならず我が国の食料供給地としての役割を担っています。このたび、夕張川新水路の事業概要、治水効果、当時の地元の熱意及び工事関係者の尽力を振り返り、今後の治水事業のあり方を考えるメモリアルシンポジウムを開催しました。



※平成23年に土木学会の  
選奨土木遺産に認定されています。

### ～シンポジウムの様子～

※写真撮影:(一財)石狩川振興財団



新水路の概要説明のほか、  
新水路工事を振り返った  
ドラマ(DVD)を上映

地元住民の方も含め、約180名が参加しました。



数多くの地元の方に  
参加いただきました

夕張川新水路や石狩川流域の治水の歴史、本年8月の台風による被災と復旧活動の様子をパネル展示しました。

### パネルディスカッション

鈴木 英一  
(コーディネーター)

佐々木 光枝  
(保原元二氏ご息女)

三好 富士夫  
(南幌町長)

戸川 雅光  
(長沼町長)

山田 大隆  
(酪農学園大特任教授)

宮藤 秀之  
(札幌開発建設部長)

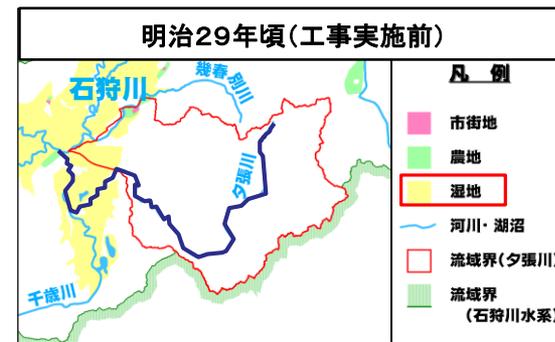


「治水功労者への感謝」、「今後の土木事業に人が果たす役割」を視点に、パネラーから意見を発表していただきました。新水路計画を立案した道庁技師である保原元二氏の土木技術者以外の多才な側面、地元で現在まで続いている治水感謝の取組み、保原氏をきっかけとした国際交流、今年の台風での災害復旧の従事者の貢献など、幅広い意見を発表いただきました。

※敬称略

### ～夕張川新水路の概要～

夕張川新水路事業は、蛇行しながら合流する夕張川と千歳川を切り離し、直接石狩川に流すことにより洪水被害を軽減し、治水の安全度を大きく向上させるために実施されました。



### 夕張川新水路工事(大正11年～昭和11年)

